

つくば市図書館懇話会提言書

つくば市図書館の将来構想 2020
ふれあいライブラリーパーク

Fureai Library Park

令和2年(2020年) 3月

つくば市図書館懇話会提言書

つくば市図書館の将来構想 2020
ふれあいライブラリーパーク

つくば市図書館懇話会 委員名簿

No.	氏名(敬称略)	備考
1	呑海 沙織	学識経験者(筑波大学 図書館情報メディア系)、座長
2	宇陀 則彦	学識経験者(筑波大学 図書館情報メディア系)
3	渡 和由	学識経験者(筑波大学 芸術系)
4	藤井 さやか	学識経験者(筑波大学 システム情報系)
5	坏 文雄	つくば市図書館協議会会長
6	筒井 幸子	図書館ボランティア
7	杉本 まき子	(公募)
8	大森 智子	(公募)
9	古市 未央	(公募)
10	瀬戸 智子	(公募)

目次

はじめに	2
将来ビジョン	3
ステップアップフロー	4
ライブラリーネットワークマップ	5
第1章 つくば市の図書館の現状と課題	7
第1節 公立図書館の役割と変化	7
第2節 つくば市の図書館の体制	8
第3節 数字からみるつくば市の図書館の課題	10
第4節 市民の声からみるつくば市の図書館の課題	12
第2章 これからのつくば市の図書館のあり方	19
第1節 将来ビジョンとコンセプト	19
第1コンセプト：青空×図書館	19
第2コンセプト：カフェ×図書館	20
第3コンセプト：多様性×図書館	21
第4コンセプト：イノベーション×図書館	22
第2節 ステップアップフロー	23
第3章 つくば市の図書館への提言	24
おわりに	26
つくば市図書館懇話会開催記録	27
将来ビジョンのコンセプトイメージ図の解説	28
図1 ライブラリーピクニック（2019年11月）のポスター	6
図2 セントラル・ライブラリー・カフェ（マンチェスター公共図書館）	7
図3 認知症の本の処方箋コーナー（ノッティングヒル公共図書館）	7
図4 現在のつくば市の図書館サービス網	9
図5 シンポジウムでの講演の様子	12
図6 シンポジウムでのグループワークの結果とその発表の様子	13
表1 つくば市の図書館略史	8
表2 貸出密度上位の公立図書館との比較	11

はじめに

つくば市は、五十嵐立青市長の公約である「市民に愛される新しい市民図書館を作るための多世代・他分野からなるプロジェクト」に着手するため、つくば市図書館懇話会を立ち上げ、平成30（2018）年7月に検討を開始しました。つくば市図書館懇話会の委員は、学術経験者として筑波大学の教員4名、つくば市図書館協議会会長1名、図書館ボランティア1名、公募の市民4名の計10名で構成される市民参加型の委員会です。

緑豊かな中央公園に位置するつくば市立中央図書館は、開館30年目に入り、まちのシンボリック施設になっています。しかし、常住人口が24万人を超えるにも関わらず一館体制であること、施設が手狭であるため滞在型図書館へのニーズを満たせないこと、車社会であるにもかかわらず専用の駐車場がないことなど、多くの課題を抱えています。

つくば市図書館懇話会では、平成30（2018）年7月19日から令和2（2019）年10月15日にかけて、計10回の委員会を開催しました。会議室で、図書館の課題やこれからのことについて活発に議論を行うだけでなく、時には会議室外で活動しました。例えば、図書館の現状と課題を把握するために、つくば市立中央図書館や谷田部や筑波の交流センター図書室、自動車図書館アルス号のステーションへ足を運びました。

また、イベントを開催し、図書館の実情を市民に伝えるとともに、つくば市の図書館の課題やニーズについて市民とともにディスカッションを行うなど、市民の図書館に関する意見を取り入れる工夫をしました。平成30（2018）年11月には、筑波大学図書館情報メディア系と共催で、公開シンポジウム「図書館の未来のかたち—つくば市の図書館のこれからを考える—」（於：つくば市役所）、平成31（2019）年3月には、自動車図書館の新たな活用の可能性を探るため、つくばVAN泊（於：セキショウイノベーションパーク）への自動車図書館の出展を行い、令和元（2019）年5月および11月には、新しい読書環境を提案するライブラリーピクニック（於：つくば文化会館アルス屋外展示場、筑波大学中央図書館ほか）を開催し市民の声を集めました。

このような実践を伴う議論の末、練り上げられた未来のつくば市の図書館の将来ビジョンが「ふれあいライブラリーパーク」です。「人と人、人と本、本と本がふれあう公園のように自由な図書館で、地域の課題を解決し、新たなモノ／コトを生み出す」場として、図書館を再定義しました。

つくば市図書館懇話会は、「市民のための図書館として変えてはいけぬ部分を守りつつ、つくば市の特徴を生かした変化を」という姿勢を基本として、つくば市の図書館のこれからのことについて柔軟な議論を重ねて参りました。その結果をこれからのつくば市の図書館のあり方についての提言書としてとりまとめ、ここに示します。

この提言書は、これからのつくば市の図書館のあり方を示す3つの図（将来ビジョン、ステップアップフロー、ライブラリーネットワークマップ）と3章から構成しています。第1章では、つくば市の図書館に関する現状と課題を、第2章では、これからのつくば市の図書館のあり方について、将来ビジョンおよびステップアップフローをもとにした説明を、第3章ではつくば市の図書館への5つの提言をまとめました。

この提言書をまとめるにあたってご協力くださいました関係者のみなさまに厚くお礼申し上げますとともに、この提言書が、つくば市の図書館のこれからのことに寄与することを強く願います。

青空×図書館



すべての市民が気軽に自由に
利用できる図書館



つくば市図書館の将来構想 2020

将来ビジョン ふれあい ライブラリーパーク

人と人、人と本、本と本がふれあう
公園のように自由な図書館で
地域の課題を解決し、
新たなモノ/コトを生み出す

カフェ×図書館



市民の居場所となる
サードプレイスとしての滞在型図書館



多様性×図書館

コミュニケーションを通じて
相互理解を促進する図書館



イノベーション×図書館

地域の課題を解決し
新しい価値を生み出す図書館

illustration by madoka

ふれあいライブラリーパーク

人と人、人と本、本と本がふれあう
公園のように自由な図書館で、地域の課題を解決し、
新たなモノ／コトを生み出す

現在 非協調的分散状態

【課題】

- 図書館サービスがつくば市全域に行き渡っていないこと
- 図書館サービスが地域的に不均質であること
- 図書館専有延床面積の狭隘によって、滞在型サービスが提供できないこと



第1段階 半協調的全域化(1～5年後)

4か所のオンライン化交流センター図書室を分館化もするとともに、図書館空白地帯である市西部地域に分館を設置し、自動車図書館を増やすことによって、つくば市全域に図書館サービスを拡大する。

【重点コンセプト】

青空×図書館:すべての市民が気軽に自由に利用できる図書館

第2段階 協調的全域化(6～10年後)

中央館、分館、自動車図書館、交流センター図書室を組織的に一体化することによって、つくば市全域全体の図書館サービスを底上げし均質化するとともに、多様性を尊重するコミュニティ創造に寄与する。

【重点コンセプト】

カフェ×図書館:市民の居場所となるサードプレイスとしての滞在型図書館

多様性×図書館:コミュニケーションを通じて相互理解を促進する図書館



第3段階 知識情報基盤化(11～15年後)

中央図書館を改築あるいは新築して滞在型図書館を実現することによって、つくば市の知識情報や知的コミュニケーションの基盤としての役割を果たし、分館や交流センターをサポートするセンター機能を強化する。

【重点コンセプト】

イノベーション×図書館:地域の課題を解決し、新しい価値を生み出す図書館

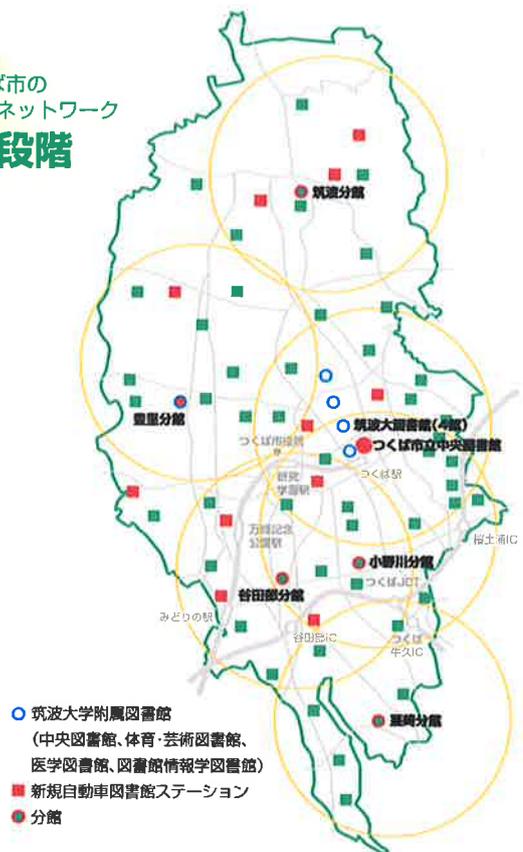


ライブラリーネットワークマップ

つくば市の
図書館サービス網
現在



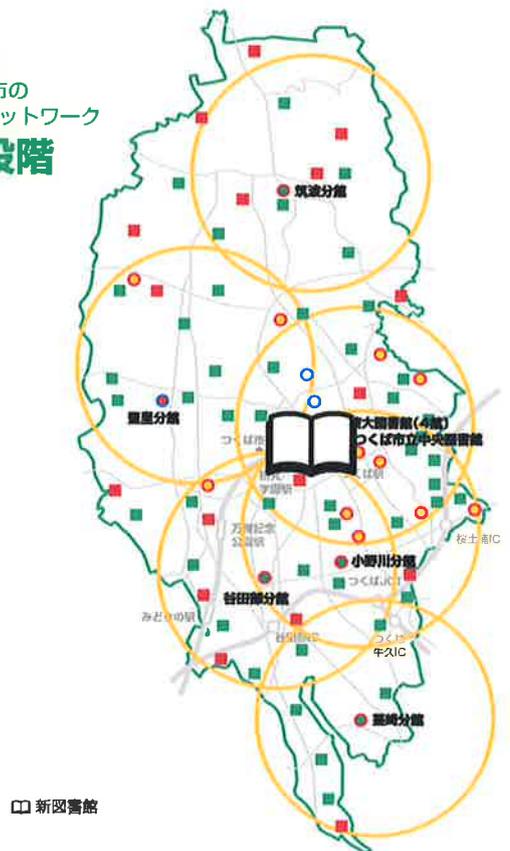
つくば市の
ライブラリーネットワーク
第1段階



つくば市の
ライブラリーネットワーク
第2段階



つくば市の
ライブラリーネットワーク
第3段階





ライブラリーピクニック 2日(土) 11:00~16:00

- 【会場】筑波大学附属図書館中央図書館
つくば市天王台1-1-1
- ◎つづきブックカフェ「オレンジボーイ」による図書展示
 - ◎読み聞かせ ※随時開催
 - ▶つづきブックカフェ
 - ▶筑波大学ストーリーテリング研究会
 - ◎自動車図書館アルス号による図書貸出
※つくば市立図書館の利用カードをお持ちください
 - ◎屋外読書スペース (飲食物の持込み可)
 - ◎音楽演奏

つづきブックカフェ 3日(日) 11:00~15:00

- 【会場】つくばセンター広場 BiViつくば前
つくば市吾妻1-8-10
- ◎つづきブックカフェ「オレンジボーイ」による図書展示
 - ◎読み聞かせ ※随時開催
 - ▶つづきブックカフェ
 - ◎パネルシアター
 - ▶NPO法人チャリティーサンタ ※13:00~4回公演
 - ◎屋外読書スペース (飲食物の持込み可)

筑波大学附属図書館中央図書館で開催 **入場無料**
令和元年度筑波大学附属図書館特別展
～東京1964と日本文化について考える～
11月1日(金)～12月6日(金)

オリンピック競技会は、スポーツの祭典であるとともに、文化の祭典でもあります。日本は、1940年と1964年の東京オリンピックに際してどのように表現してきたのでしょうか。その様子を、筑波大学附属図書館所蔵のオリンピック関連書籍やコレクションなどを重ねて見つめていきます。

【会場】筑波大学中央図書館貴重書展示室

📍筑波大学中央図書館への道順
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/map/map-chuo>

【問合せ】筑波大学附属図書館古典資料担当
☎ 029-853-2376

筑波大学春日エリアで開催 **入場無料**
江戸のAdvertisings
江戸絵を楽しむ
11月1日(金)～12月16日(月)

江戸時代は商品広告がどのようになされたか、看板などに注目して浮世絵や古文書を紹介し、当時の食や道具に関する資料も展示。身近なテーマで視覚的にも楽しい企画です。

【会場】筑波大学春日エリア情報メディアユニオン1階
図書館情報学図書館メディアミュージアム

📍筑波大学春日エリアへの道順
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/map/map-tojo>

【問合せ】筑波大学図書館情報学図書館
☎ 029-859-1200・1232 (無料駐車場あり)

図1 ライブラリーピクニック (2019年11月) のポスター

第1章 つくば市の図書館の現状と課題

本章では、まず公立図書館の役割と変化について述べた後、つくば市の図書館の現状と課題について、つくば市の図書館体制、数字からみるつくば市の図書館の課題、市民の声からみるつくば市の図書館の課題という観点から概観します。

第1節 公立図書館の役割と変化

全国に3,300館ある公立図書館は、誰もが目的を問われず無料で自由に利用できる公共施設です。小説や実用書、絵本、児童書、雑誌、視聴覚資料、郷土資料などの閲覧や貸出ができるだけでなく、専門書やデジタル化された新聞記事、データベースやインターネットの利用もできます。図書館員は、カウンターで貸出し手続きをするにとどまらず、読書案内、市民の課題解決のための資料や情報の探し方の手助けをします。課題解決の手助けについては、課題解決型図書館サービスとして、学校教育支援、子育て支援、ビジネス支援、医療や健康に関する情報支援、農業支援などが展開されており、全国的に広がりをみせています。このように公立図書館は、知の拠点、市民の生涯学習の場として、地域の活性化に貢献しています。

また、国内外を問わず、図書館は現在、大きく変化しつつあります。たとえば、図書館といえば静かな空間というイメージがありますが、昨今、ディスカッションやコミュニケーションができるような空間をゾーニングして提供する図書館が増えています。また、市民の居場所としての機能を果たすため、カフェを併設するなど、長い時間、居心地よく過ごすことができるように空間をデザインしている図書館も普及してきています。さらには、集客力のある図書館をまちづくりの拠点として位置付ける傾向もみられます。平成29（2017）年の日本図書館協会の全国図書館大会のテーマが「まちづくりを図書館から」であったことに象徴されるように、公立図書館が地域の活性化やまちづくりに欠かせない存在であるという認識が広まっています。

このような公立図書館の役割や変化に照らし、つくば市の図書館はどのような状況にあるのでしょうか。次節では、つくば市の図書館の現状について概説します。



図2 セントラル・ライブラリー・カフェ
(マンチェスター公共図書館)



図3 認知症の本の処方箋コーナー
(ノッティングヒル公共図書館)

第2節 つくば市の図書館の体制

つくば市立中央図書館は、平成2（1990）年6月に、茨城県近代美術館つくば分館との複合施設「つくば文化会館アルス」として開館し、翌7月に自動車図書館の運行を開始しました。

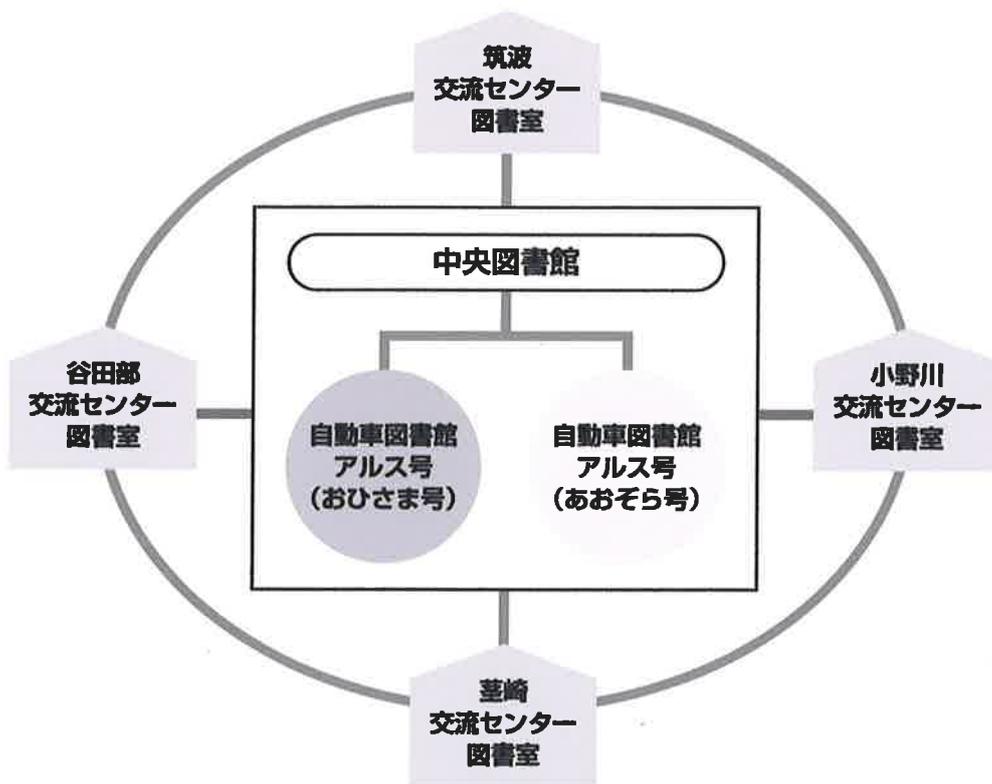
表1 つくば市の図書館略史

昭和62(1987)年11月	研究学園都市建設連絡協議会による「筑波研究学園都市総合都市文化センター図書館基本計画」策定
平成元(1989)年3月	図書館を含む複合施設「筑波研究学園都市総合都市文化センター」着工
平成2(1990)年4月	「筑波研究学園都市総合都市文化センター」竣工
平成2(1990)年6月	中央図書館開館
平成2(1990)年7月	自動車図書館運行開始
平成3(1991)年4月	稲敷郡茎崎町民への貸出サービス開始
平成5(1993)年2月	谷田部公民館図書室とのオンライン化(既存館)
平成5(1993)年7月	筑波公民館図書室とのオンライン化(新設館)
平成10(1998)年5月	小野川公民館図書室とのオンライン化(新設館)
平成12(2000)年12月	自動車図書館「アルス1号」車両更新
平成13(2001)年12月	自動車図書館「アルス2号」車両更新
平成15(2003)年7月	茎崎公民館図書室とのオンライン化(既存館)
平成17(2005)年3月	年間総貸出冊数100万冊を超える(県内初)
平成17(2005)年4月	個人貸出を5冊から10冊に変更
平成23(2011)年3月	東日本大震災発生により、施設・資料等が破損し臨時休館 3月23日から時間短縮で開館
平成26(2014)年3月	本庁舎にブックポスト設置
平成27(2015)年4月	一部の祝日開館を開始

※公民館は、平成23（2011）年4月に「交流センター」に変更となりました

つくば市では、市域全体に図書館サービスを届けることを目的として、現在、自動車図書館車を2台保有し、小学校、義務教育学校、保健所、高齢者施設など47か所のステーションを2週間に1度巡回しています。また、市内に17か所ある交流センターにはそれぞれ図書室がありますが、そのうち4か所の交流センター図書室（筑波、谷田部、荃崎、小野川）は、つくば市立中央図書館とのオンライン化により、周辺地域に図書館サービスを届ける役割を果たしています。

つくば市の図書館サービス網は、現在「ライブラリーネットワークマップ」(P5)のとおりです。4か所の交流センター図書室はオンライン化されているものの、分館という位置づけではなく、つくば市として一体化した図書館サービスを提供することが困難です。また、市西部が、図書館空白地帯となっており、地域によって図書館サービスの不均衡が生じています。



オンライン化されていない交流センター図書室 13 室

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| ①大穂交流センター | ②吉沼交流センター | ③豊里交流センター | ④松代交流センター |
| ⑤二の宮交流センター | ⑥春日交流センター | ⑦島名交流センター | ⑧桜交流センター |
| ⑨栗原交流センター | ⑩並木交流センター | ⑪広岡交流センター | ⑫吾妻交流センター |
| ⑬竹園交流センター | | | |

図4 現在のつくば市の図書館サービス網

第3節 数字からみるつくば市の図書館の課題

本節では、図書館統計から、つくば市の図書館の課題を明らかにしたいと思います。

つくば市立中央図書館の来館者数は、平日 1,400 人から 1,600 人、土曜日および日曜日は、2,500 人から 3,500 人です。昨年度の入館者は約 57 万人であり、県内では土浦市立図書館に次いで来館者が多い図書館です。しかし県内の図書館と資料数を比較すると、つくば市立中央図書館は約 28 万冊、県内図書館の平均は約 20 万冊であり、人口規模を勘案して比較すると、つくば市の資料数は、茨城県の平均を大きく下回っています。また、平成 30（2018）年度の資料費約 4,300 万円、奉仕人口一人あたりの資料費は約 189 円であり、県内の図書館と比べて低いという現状です。

貸出人数は、0歳以上 13 歳未満は約 43,000 人、13 歳以上 30 歳未満は約 22,000 人、30 歳以上は約 166,000 人です。年代別では、40 歳から 49 歳が約 58,000 人と最も多く、全国的な傾向と同様、13 歳以上 30 歳未満が最も少なくなっています。

表2は、人口 20 万人以上 30 万人未満の市のうち、貸出密度上位の公立図書館 39 館と、つくば市の図書館との比較を表した表です。貸出密度とは、統計を用いて算出する図書館活動に関する計量的な指標のひとつであり、住民 1 人あたりの貸出の冊数を指します。また、この表における「貸出密度上位の公立図書館」とは、貸出密度上位 10 パーセントの図書館を指します。ただし、政令指定都市や特別区は除きます。

この表から下記のように、つくば市の図書館の課題を読み取ることができます。

(1)図書館数

つくば市の図書館数は 1 館であるのに対し、全体平均は 4.3 館、上位4市平均は 5.0 館であり、図書館数が少ない。

(2)図書館専有延床面積

つくば市の図書館専有延床面積は 1,714.5㎡であるのに対し、全体平均は 1,546.9㎡、上位4市平均は 7,170.9㎡である。全体平均を上回るものの、上位4市平均の4分の1以下である。

(3)専任職員数

つくば市の専任職員数は 15.0 人であるのに対し、全体平均は 15.1 人、上位4市平均は 29.0 人である。全体平均とほぼ同等であるが、上位 4 市平均の約半数である。

(4)人口当貸出点数

つくば市の人口当貸出点数は 4.2 点であるのに対し、全体平均は 5.4 点、上位4市平均は 10.3 点である。上位4市平均の2分の1以下であり、全体平均より下回っている。

(5)資料費

つくば市の資料費は 43,105.0 千円であるのに対し、全体平均は 52,863.6 千円、上位4市平均は 66,137.3 千円である。上位4市の8割よりも低く、全体平均より下回っている。

表2 貸出密度上位の公立図書館との比較

	人口段階	つくば市	上位4市の平均	全体の平均
1	人口	227,135.0	260,908.8	250,051.3
2	図書館数	1.0	5.0	4.3
3	図書館専有延床面積 (㎡)	1,714.5	7,170.9	1,546.9
4	自動車図書館数(台)	2.0	1.0	1.1
5	専任職員数	15.0	29.0	15.1
6	うち司書	10.0	22.3	7.0
7	司書率	66.7	76.7	46.3
8	非常勤・臨時職員数	24.8	52.2	8.1
9	うち司書	13.7	26.8	不明
10	委託・派遣職員数	0.0	18.9	5.0
11	うち司書	0.0	15.1	不明
12	蔵書冊数	344,721.0	963,313.3	177,970.1
13	うち開架冊数	162,110.0	432,771.0	84,790.4
14	図書年間購入冊数	20,947.0	38,583.5	5,431.6
15	雑誌年間購入種数	216.0	533.3	89.4
16	新聞年間購入種数	31.0	46.5	不明
17	登録者数	43,540.0	101,431.7	24,095.2
18	貸出点数	964,123.0	2,699,017.0	316,784.4
19	人口当貸出点数	4.2	10.3	5.4
20	予約件数	95,053.0	502,154.5	39,031.1
21	図書館費(経常費・千円)	332,795.0	347,938.8	238,957.4
22	資料費(臨時含む)(千円)	43,105.0	66,137.3	52,863.6
23	うち図書費	35,500.0	51,441.8	38,332.9
24	うち雑誌新聞費	4,105.0	9,811.3	5,383.2
25	うち視聴覚費	3,500.0	1,994.3	2,032.2
26	人口当資料費(円)	189.8	258.2	190.7

※出典は、図書館雑誌 2019年5月号、数字で見る日本の図書館「貸出密度上位の公立図書館整備状況・2018」及び「日本の図書館 - 統計と名簿 - 2018」から

- 1 人口：対象市町村の平均人口。2017年1月1日現在の住民基本台帳登録人口
 - 2 図書館数：対象市町村における平均図書館数
 - 3 延床面積：対象市町村の図書館延床面積合計の平均
 - 4 自動車図書館数：所有市町村の平均台数
 - 5 職員数：対象市町村図書館の正職員数の平均
 - 6 うち司書：正職員の司書有資格者数の平均
 - 8 非常勤・臨時職員数：対象市町村図書館の非常勤・臨時職員数の平均。年間実働時間1500時間を1人に換算
 - 13 うち開架冊数：対象市町村図書館の開架図書冊数の平均
 - 14 図書年間購入冊数：対象市町村図書館が2017年度購入した図書冊数の平均
 - 15 雑誌年間購入種数：対象市町村図書館が2017年度に購入した雑誌種数の平均
 - 16 新聞年間購入種数：対象市町村が2017年度に購入した新聞種数の平均
 - 17 登録者数：対象市町村図書館の2018年3月末日現在の貸出登録者数の平均
 - 18 貸出点数：対象市町村図書館の2017年度の実績の平均
 - 19 人口当貸出点数：対象市町村図書館の人口一人当たりの貸出点数（貸出密度）
 - 20 予約件数：対象市町村図書館の2017年度の実績の平均
 - 21 図書館費：対象市町村図書館の2018年度図書館費予算額（経常費）の平均
 - 22 資料費：対象市町村図書館の2018年度資料費予算額（臨時費含む）の平均
 - 26 人口当資料費：対象市町村図書館の人口一人当たりの資料費
- ・上位4市は、茨木市、調布市、明石市、宝塚市

第4節 市民の声からみるつくば市の図書館の課題

平成30(2018)年11月24日、つくば市役所にて「図書館の未来のかたち—つくば市の図書館のこれからを考える—」と題し公開シンポジウムを開催しました。本節では、このシンポジウムのグループワークの結果から、つくば市の図書館の課題を浮かび上がらせたいと思います。

このシンポジウムの前半部分は、毛塚幹人つくば市副市長による「つくば市のビジョンと図書館」、筑波大学図書館情報メディア系の呑海沙織教授による「公共図書館とつくば市の図書館のこれから」、先進的な取り組みを展開している横浜市港北図書館の木下豊館長(当時)による「地域を味方にする図書館づくり」の3つの講演で構成しました。後半部分は、つくば市を中心とする参加者によるグループワークを行いました。8つのグループそれぞれが、「市民に愛されるつくば市図書館に向けて」というテーマでディスカッションを行い、課題やニーズを整理し、その結果を発表しました。



図5 シンポジウムでの講演の様子
(左から、毛塚副市長、呑海教授、木下館長)

シンポジウムの概要

主 催	つくば市立中央図書館、筑波大学図書館情報メディア系
開 催 期 日	平成30(2018)年11月24日(土)13:30~17:00
開 催 場 所	つくば市役所会議室201
テ ー マ	「図書館の未来のかたち—つくば市の図書館のこれからを考える—」
13:30~13:40	開会のあいさつ 筑波大学図書館情報メディア系 溝上智恵子系長
13:40~14:10	講演:つくば市 毛塚幹人副市長 「つくば市のビジョンと図書館」
14:10~14:40	講演:筑波大学図書館情報メディア系 呑海沙織教授 「公共図書館とつくば市の図書館のこれから」
14:40~15:10	講演:横浜市港北図書館 木下豊館長(当時) 「地域を味方にする図書館づくり」
15:20~16:10	グループワーク「市民に愛されるつくば市図書館に向けて」
16:10~16:40	各グループによる発表
16:40~17:00	閉会のあいさつ つくば市立中央図書館 梶山久美子館長(当時)



図6 シンポジウムでのグループワークの結果とその発表の様子

つくば市図書館懇話会ではシンポジウム終了後、グループワークで出されたコメントを(1)資料、(2)サービス、(3)スペース、(4)アクセシビリティ、(5)アウトリーチ、(6)マネージメントという6つのカテゴリーに分類し、カテゴリーごとに主要なコメントをまとめました。なお、抽象的なものから具体的なものまで記述の粒度が異なっていますが、寄せられたコメントをできるだけ反映させることを優先しました。

(1) 資料

- 日本十進分類法にとらわれずテーマに沿った資料の配置をしてはどうか
- 本との新たな出会いが生まれるように棚の工夫をしてはどうか
- ポップ見出しを作ったり、面出しが多い書架にしてはどうか
- 幼稚園教諭や保育士に資料の紹介をしてもらってはどうか
- 年齢ごとの本の紹介をしてはどうか
- 利用者に対して蔵書数が少ないように思うので、蔵書数を増やしてほしい
- テーマを限定したうえで、市民が選書に関われるようにしてはどうか
- さまざまな言語の本をそろえてはどうか
- 入院中の子どもたちや図書館へアクセスすることが難しい人へ資料を提供するという観点から、デジタル資料を充実させてはどうか
- ファーストブックを紹介する資料の配布を行ってはどうか
- どこでも資料を貸し借りできるようにしてほしい
- 他館の資料の取り寄せを簡単にできるようにしてほしい
- 移動図書館には子どもの本が多いようであるが、医療健康情報に関する本を増やしてはどうか

(2) サービス

- 貸出し作業に手がとられてしまい、他のサービスが不足しているように感じるので、職員を増やしてはどうか
- 「科学のまちつくば」なのだからロボットにできることはロボットに任せてはどうか
- レファレンスサービスを充実させてほしい
- 図書館へ足を運びたいくなるようなイベント、意外性のあるイベントをおこなってはどうか
- イベントの定例化、シリーズ化を行ってはどうか
- 学校の読書活動支援を行ったり、学習指導に沿ったサービスを展開してはどうか
- 外国語の読み聞かせ、留学生のためのつくば市観光案内、中高年のための SNS の使い方講座、高齢者や認知症の人を対象にした読み聞かせ、アニメーション、市内の図書館を回るツアー、郷土資料館と共催のつくばの歴史講座などを企画してはどうか
- つくば出身者による講演や絵本の世界に関する講演、認知症の人やその家族を対象とした講演を実施してはどうか
- イベント終了後に交流ができるようにしてはどうか

- 市民が主体となって行うイベントを開催してはどうか
- 時節にあった展示を行ってはどうか（オリンピック、パラリンピック、万博など）
- つくば市への転入者を対象としたサービスを行ってはどうか

(3) スペース

- 滞在型図書館を志向し、心地よい快適な空間を目指してはどうか
- 居場所としてのスペースを設けてはどうか
- 交流スペースを拡充してはどうか
- 学習や読書を行う静的エリアと、ディスカッションやプレゼンテーションなどができる動的エリアにゾーニングしてはどうか
- 中庭に出られるようにし、テラス席を設けるなど、読書ができるようにしてはどうか
- 中央公園に面した子どもコーナーの窓に庇を設置したり、子供コーナーから出られるデッキを設置したり、中央公園の借景を取り入れて開放感を演出したりして、中央公園との連続性を図ってはどうか
- 高い天井を活かして展示物をつるしたり、ロフトをつくったりしてはどうか
- 天井は高すぎると不安に感じる。天井が低いと親密感が出るのではないか
- 飲食可能なスペースを設けてほしい
- 顔見知りができるきっかけの場となるようなしかけをつくってはどうか
- エントランスホールが暗いので、明るくしてほしい
- 書架付け照明のまぶしさを軽減してほしい
- カーペットを張り替えてほしい。その際、色や柄は認知症の人に考慮したものにすることがよいのではないか
- 伝えたい情報に皆の視点が届きやすい、わくわくするようなデザインにしてはどうか
- 椅子を長居したくなるようなデザインにしたり、椅子のデザインを多様なものにしてはどうか
- 探しやすい棚、絵本が選びやすい棚に改修してはどうか
- 図書館入口正面にある新聞ボードを撤去するなどして、空間を有効利用し、解放感を演出してはどうか
- お話し室に低い椅子を置いてほしい
- 書架の脇にスツールを置いてほしい
- 背が高い棚の近くに脚立を置いてほしい
- トイレが狭いので広くしてほしい。多目的トイレを設置してほしい

(4) アクセシビリティ

- アクセシビリティの再考が必要ではないか
- 高齢者、障害者、認知症の人への配慮が必要である。ユニバーサルデザインを導入し、誰にでも使いやすい図書館にするとよい
- 多文化サービスをもっと充実させてはどうか
- ピクトグラムを使うなど、誰にでもわかりやすいサインにしてはどうか
- バリアフリーの視点から、トイレが使いづらいので多目的トイレにするなど、改修してはどうか
- 車の運転ができない方のためにバスで行けるステーションを設置してはどうか
- 専用駐車場をつくってほしい
- エントランスホールのスロープのコーナーがきつく、車椅子の人には使いにくいので改善してほしい
- エレベーターがエントランスから奥にあり、わかりにくいのでサインなど工夫してほしい

(5) アウトリーチ

- 学校、福祉施設、高齢者施設へ団体貸出をしてはどうか
- 団体貸出の際に、本を選ぶコンシェルジュを配置してはどうか
- ブックトークを学校で実施してはどうか
- つくば駅改札前（駅ナカ）にタブレット端末を用意し、コーヒーを飲みながら電子書籍が読めるスペースを設置してはどうか
- 自動車図書館の台数増を図り、交通不便な人にもっとサービスを提供する環境を整備してはどうか
- ライブラリーピクニックなど、自動車図書館を活用する取り組みをしてはどうか
- 小ぶりの自動車図書館があると小回りが利くのではないか

(6) マネージメント

- 多様な広報手段を活用してはどうか（PR 動画、SNS など）
- 学校の授業などで図書館を知ってもらう機会をつくってはどうか
- コミュニティの拠点、地域のハブとしての図書館という位置づけを認識した運営をする必要があるのではないか
- 図書館の方向性、力を入れていること、主なターゲットを明確化してはどうか
- 既成概念である「図書館＝読書」のイメージを変えていく必要があるのではないか
- 図書館利用の心理的障壁を軽減するような仕組みを考えてはどうか。たとえば、図書館利用の入り口は、「知的」からではなく「楽しみ」からがよいのではないか。また、隣の利用者と気軽に話ができ、その気軽さの延長線上で調べものをするといった敷居を低くするしくみを考えるとよいのではないか
- 自動車図書館にラッピングを施して、企業から協賛金を募ってはどうか
- 美術館や博物館と連携してはどうか

- 大学図書館や学校図書館、研究機関と連携してはどうか
- 図書館ボランティアを拡充するとよいのではないか
- 図書館ボランティアの活動がみえる工夫をするとよいのではないか
- こども図書館を整備してほしい

(7) まとめ

以上の意見からみるつくば市の課題を下記のようにまとめました。

①滞在型図書館へのニーズ対応

最も多くコメントがあったのは、「スペース」カテゴリでした。「滞在型図書館を志向し、心地よい快適な空間を目指してはどうか」「飲食可能なスペースを設けてほしい」「居場所としてのスペースを設けてはどうか」「交流スペースを拡充してはどうか」といったコメントから、滞在型図書館へのニーズが高いことがうかがえます。「学習室などの静的エリアと、ディスカッションやプレゼンテーションなどができる動的エリアにゾーニングしてはどうか」というコメントがありましたが、専有延床面積が小さいという問題を抱えるつくば市立中央図書館の現状では対応が困難です。非滞在型としてデザインされているつくば市立中央図書館は、図書館拠点を増やしたり、他図書館と連携・協働したり、改築・新築するなどして、滞在型図書館へのニーズに応える必要があります。

②外部環境との連続的な場づくり

「中庭に出られるようにし、テラス席を設けるなど、読書ができるようにしてはどうか」「中央公園に面した子どもコーナーの窓に庇を設置したり、子供コーナーから出られるデッキを設置したり、中央公園の借景を取り入れて開放感を演出したりして、中央公園との連続性を図ってはどうか（スペース・カテゴリ）」というアイデアが出されました。つくば市中央図書館は、中庭に面して全面ガラス張りの開放感のある空間があり、公園やペDESTリアンデッキに面しています。このような環境を生かした外部環境との連続的な場作りは、狭隘化への解決策のひとつと考えることができます。

③アクセシビリティの向上

「さまざまな言語の本をそろえてはどうか」「入院中のこどもたちや図書館へアクセスすることが難しい人へも資料を提供するという観点から、デジタル資料を充実させてはどうか（資料カテゴリ）」、「外国語の読み聞かせ、留学生のためのつくば市観光案内（散歩コース）、中高年のためのSNSの使い方講座、高齢者や認知症の人を対象にした読み聞かせ」（サービス・カテゴリ）、「高齢者、障害者、認知症の人への配慮が必要。ユニバーサルデザインを導入し、誰にでも使い易い図書館にするとよい」「多文化サービスをもっと充実させてはどうか」「ピクトグラムを使うなど、誰にでもわかりやすいサインにしてはどうか」「バリアフリーの視点から、トイレが使いづらいので多目的トイレにするなど、改修してほしい」（アクセシビリティ・カテゴリ）、「自動車図書館の台数増を図り、交通不便な人にもっとサービスを提供する環境を整備してはどうか」（アウトリーチ・カテゴリ）」というコメントがありました。さまざまなバックグラウンドをもった人の図書館利用の障害を取り除くこ

とが求められていることがわかります。全ての人にやさしい (friendly) 図書館は、多様性を尊重し、相互理解を促進することによって、より豊かなコミュニティの形成に寄与することができます。

④科学技術の活用と発展への寄与

「『科学のまちつくば』なのだからロボットにできることはロボットに任せてはどうか」(サービス・カテゴリー) というつくば市の特徴をふまえたコメントがありました。つくば市立中央図書館では、図書配送業務に携わるスタッフの腰への負担軽減のために装着型ロボットを平成 30 (2018) 年から導入しています。また、館内での図書運搬のために自動追尾型ロボットを活用しています。今後も、企業や大学、研究所などと連携し、これらの科学技術を実装するだけでなく、実験の場となることによって、科学技術の発展に寄与できると考えられます。

⑤コンセプトや方向性の明示

「コミュニティの拠点、地域のハブとしての図書館という位置づけを認識した運営をする必要があるのではないか」「図書館の方向性、力を入れていること、主なターゲットを明確化してはどうか」「既成概念である「図書館=読書」のイメージを変えていく必要があるのではないか」(マネジメント・カテゴリー) というコメントがありました。つくば市立中央図書館のコンセプトや今後の方向性をわかりやすい形で提示する必要があります。

第2章 これからのつくば市の図書館のあり方

本章では、つくば市図書館懇話会より提案する将来ビジョンと4つのコンセプト、ステップアップフローについて述べます。

第1節 将来ビジョンとコンセプト

つくば市図書館懇話会では、市民のみなさんからいただいた意見を取り入れながら議論を重ね、これからのつくば市の図書館の将来ビジョンを「ふれあいライブラリーパーク」というフレーズで表すことにしました（「将来ビジョン」P3 参照）。

「ふれあいライブラリーパーク」とは、公園のように出入りが自由な開かれた図書館で、人と人、人と本、本と本がふれあうことにより、地域の課題解決や、新たなモノ／コトを生み出す図書館です。「ふれあいライブラリーパーク」は、自然、国際性、科学といったつくば市の特性や、ハブアンドスポークの都市構造を生かした下記のような4つのコンセプトから構成しています。

第1コンセプト 青空×図書館：すべての市民が気軽に自由に利用できる図書館

第2コンセプト カフェ×図書館：市民の居場所となるサードプレイスとしての滞在型図書館

第3コンセプト 多様性×図書館：コミュニケーションを通じて相互理解を促進する図書館

第4コンセプト イノベーション×図書館：地域の課題を解決し、新しい価値を生み出す図書館

以下、それぞれのコンセプトについて説明します。（各コンセプトイメージ図の解説は P28 を参照）

第1コンセプト：青空×図書館

すべての市民が気軽に自由に利用できる図書館

青空×図書館



将来ビジョンである「ふれあいライブラリーパーク」をイメージするのに最も直接的、直感的なコンセプトが「青空」です。

公立図書館には、日本国憲法で保障されている「表現の自由」と表裏一体の関係にある「知る自由」を保障するという役割があります。すべての人が必要な情報、知識、資料を入手したいと望むときに、図書館を利用する権利が保障されている必要があります。

そのため公立図書館は、図書館法で「入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない」と定められており、だれもが無料で利用できます。

しかし実際のところ、図書館の「本を借りに行くところ」「勉強するところ」「静かに過ごさなければならぬ堅苦しいところ」というイメージから、図書館を利用しない人もいます。そこで、つくば市の図書館は、このような限定的な図書館のイメージを変えていく必要があります。「すべての市民が気軽に自由に利用できる図書館」を目指し、第1コンセプトとして、だれもが身構えることなく自由に享受できる「青空」を掲げます。

- 自動車図書館を活用し、ライブラリーピクニック（自動車図書館を拠点とし、自由なスタイルで思い思いに戸外で読書を楽しむつくば市オリジナルの図書館イベント）のようなイベントを開催することによって、新たな読書スタイルを提案します。ライブラリーピクニックでは、赤ちゃんが大きな声でないたり、こどもが大きな声ではしゃいでも、気兼ねすることはありません。ペット連れで読書を楽しむこともできます。
- 図書館へのアクセスを向上させるため、駐車場の整備を行うとともに、他領域と協働するアウトリーチサービスに力を入れる必要があります。

第2コンセプト：カフェ×図書館

市民の居場所となるサードプレイスとしての滞在型図書館



だれもが自由に利用できる図書館は、市民のサードプレイスのひとつとして、機能することができます。サードプレイスとは、レイ・オルデンバーグがその著書『偉大な良き場（The Great Good Place）』で提唱した概念であり、「居心地がよく、人々が定期的、自発的に、非公式に、楽しく集うことができる公共の場」とされています。家庭（ファーストプレイス）、学校や職場（セカンドプレイス）以外の居場所として、図書館

が機能するためには、居心地がよく、コミュニケーションすることができる滞在型である必要があります。

しかし、平成2（1990）年に開館したつくば市立中央図書館は、当時主流であった貸出を中心とする非滞在型図書館です。本を借りて家で読むことを想定しているため、図書館内に長時間滞在するようには設計されていません。滞在型図書館を実現するためには、閲覧スペースやコミュニケーションスペースが圧倒的に不足しているのが現状です。

これらのスペース不足を解消するためには、滞在型の図書館を新築するのが最も望ましいと考えられますが、その前段階として、図書館サービスの全域化や、他図書館との連携を実現することによって次善の策とすることができます。図書館サービスの全域化については、交流センター図書室などを分館化したり、自動車図書館およびそのステーションを増やすことなどがが必要です。他図書館との連携については、つくば市域の学校図書館や大学図書館、近隣の公立図書館とのより緊密で組織的な連携が必要です。

「市民の居場所となるサードプレイスとしての滞在型図書館」を目指し、第2コンセプトとして、ゆったりと市民が自分の時間を過ごし、コミュニケーションを促進することもできる「カフェ」を掲げます。

- 緑豊かな公園やペDESTリアンデッキに面しているという立地を生かし、外部環境と有機的に接続するデザインを取り入れることによって、魅力的な図書館スペースを拡張する必要があります。このことは、図書館専有延床面積の狭隘という課題のソリューションのひとつとなります。
- 静かに読書をするためのスペースと、コミュニケーションを促進するためのスペースなど、静的スペースと動的スペースのゾーニングを実施する必要があります。
- 居心地のよいスペースを作るために、当事者である市民と専門家が協働して空間をデザインすることによって、利用者志向のスペースを実現することができます。

第3コンセプト：多様性×図書館

コミュニケーションを通じて相互理解を促進する図書館



公立図書館は、誰もが自由に無料で、目的を問われることなく利用することができる公共施設です。赤ちゃんからお年寄りまで、図書館利用に障害をもつ人も持たない人も、さまざまなバックグラウンドをもった人が利用します。

つくば市は、さまざまな多様性を持っています。例えば、つくば市には世界有数の研究機関があることから、多くの研究者や留学生などの外国人がいます。

外国人の人口は、約140か国から約10,000人、市の人口の約4.2%にあたります。またいわゆる、昔からの住民である「旧住民」と筑波研究学園都市の建設以降に住民となった「新住民」、学生などの「流動的な市民」も、その多様性を形成しています。

誰もが利用できる図書館は、コミュニケーションを通じて相互理解を促進し、多様性を尊重するコミュニティ創造に寄与することができます。コミュニケーションは、人と人のみならず、人と本とのふれあいによって実現することができます。さらに、多くの本（資料）を整理・分類して組織化することによって、より豊かな出会いを提供することができます。つくば市の図書館は、これらのコミュニケーションを実現することによって、つくば市がもつ多様性を強みとするコミュニティの創造に寄与することができます。

「コミュニケーションを通じて相互理解を促進する図書館」を目指し、第3コンセプトとして、「多様性」を掲げます。

- 多様なバックグラウンドをもった市民が企画・運営・実施する、市民参加型の図書館サービスを実現する必要があります。市民参加型にすることによって、図書館が青少年や高齢者の社会的な居場所となるばかりでなく、地域密着型の図書館サービスを実現することができます。
- 誰もがより自由に気軽に図書館を利用できるよう、アクセシビリティの向上が必要です。
- 福祉や医療などの他領域と協働し、適切な資料やイベントを通じて、認知症などの社会的スティグマの低減に寄与することができます。

第4概念：イノベーション×図書館

地域の課題を解決し、新しい価値を生み出す図書館



筑波研究学園都市を擁するつくば市の図書館づくりに科学技術は欠かせません。現代の図書館には、さまざまな科学技術が導入されています。つくば市立中央図書館では、他の図書館に先んじてロボットが導入されています。例えば、図書配送業務に携わるスタッフの腰への負担軽減のために装着型ロボットを平成30(2018)年から導入しています。また、館内での図書運搬のために自動追尾型ロボットを活用するなど、

他館から注目されています。

つくば市の図書館は今後、AR (Augmented Reality, 拡張現実) やVR (Virtual Reality, 仮想現実) の活用など、新しい科学技術を導入することによって、図書館界において先導的な役割を果たすことができます。また、図書館をこれらの新しい科学技術の実証実験の場として積極的に活用することが、新しいモノ/コトを生み出すことにつながり、これらの取組みはスタートアップの拠点作りをめざすつくば市の施策とも一致します。

このように「地域の課題を解決し、新しい価値を生み出す図書館」を目指し、第4概念として、「イノベーション」を掲げます。

- コミュニケーション型ロボットを導入することによって、市民が最新技術と触れ合える場を提供することができます。
- 企業や研究所と連携し、新たに開発された科学技術の実証実験の場として、図書館を活用することによって、科学技術の発展に寄与することができます。
- AR や VR へのコンテンツ提供や活用によって、社会的スティグマの解消等に寄与することができます。

第2節 ステップアップフロー

つくば市図書館の将来構想については、3つの段階に分けて整理しました（「ステップアップフロー」P4 および「ライブラリーネットワークマップ」P5 参照）。現在は中央図書館とオンライン化4交流センター図書室及び2台の自動車図書館により図書館サービス網を構築していますが、オンライン化されていない交流センター図書室が13室あることから、非協調的分散状態にあると言えます。

現在の体制が抱えるつくば市の図書館の主要な課題は、下記3つです。

- (1) 図書館サービスがつくば市全域に行き渡っていないこと
- (2) 図書館サービスが地域的に不均質であること
- (3) 図書館専有延床面積の狭隘によって、滞在型サービスが提供できないこと

これらの課題を改善するために、まず、第1段階（1～5年後）として、オンライン化された4か所の交流センター図書室を分館化するとともに、図書館サービスが行き渡っていないつくば市西部地域に拠点となる施設を整備するために豊里交流センター図書室を分館化し、図書館ネットワークに加える必要があります。また、移動図書館の車両を増やしてサービスステーションを増設するとともに、つくば市域の学校図書館や大学図書館、近隣の公立図書館などとの連携を強化することが不可欠です。これにより、図書館空白地帯を解消し、つくば市全域に図書館サービスを拡充させ、すべての市民が気軽に自由に利用できるような環境を整えることができます。

第2段階（6～10年後）としては、中央館、分館、自動車図書館、交流センター図書室等を組織的に一体化することによって、つくば市域全体の図書館サービスを底上げし、均質化することが必要です。このことによって、市民の居場所となるサードプレイスとしての滞在型図書館サービスを実現することができます。さらに、滞在型図書館という場を活用し、コミュニケーションを活性化することによって、多様なバックグラウンドをもつ人々が相互理解を深め、多様性を尊重するコミュニティ創造に寄与することができます。

第3段階（11～15年後）としては、中央図書館のセンター機能の強化を図るとともに、滞在型の中央図書館の新築あるいは改築を提言します。これにより、つくば市の図書館は、市の知識情報や知的コミュニケーションの基盤としての役割を果たすとともに、行政のショーケースとしての役割を果たすことができます。市民の知的欲求を満ちし、新しい科学技術の実証実験の場として、地域の課題を解決し、新しい価値を生み出す図書館の実現を目指します。

第3章 つくば市の図書館への提言

つくば市図書館懇話会は、つくば市の図書館について、下記のように提言を行います。

1. 図書館サービスの全域化

つくば市民の「知る自由」を担保するため、いつでも、どこでも、誰でも図書館サービスを受けられるように整備していく必要があります。そのためには、分館を設置したり、自動車図書館およびそのステーションを増やしたりするなどして図書館空白地帯をなくし、組織的に一体化することによってすべての市民が利用しやすい図書館となることを提言します。

2. 市民参加型の図書館サービスの実現

多様なバックグラウンドをもった市民が企画、運営、実施する、市民参加型の図書館サービスを実現することによって、図書館が青少年や高齢者の社会的な居場所となるばかりでなく、地域密着型の図書館サービスを実現することができます。特に、図書館利用に障害がある市民と協働し、居心地のよい図書館スペースや、利用しやすい魅力的な図書館サービスをつくることを提言します。

3. さまざまな図書館や領域との連携・協働

つくば市立中央図書館は、今年度（2019年度）、筑波大学附属図書館と協定を結び、つくば市域図書館連携協議会を立ち上げ、様々な連携事業を行うことになりました。今後さらに、筑波学院大学や筑波技術大学、さらには研究機関等の図書室などとの連携も進め、つくば市域の図書館サービス網の一層の充実を図ることが重要です。また、学校図書館との連携を強化し、教育現場での読書環境の整備を進めるとともに、企業や研究所と連携することによって、科学技術の発展に寄与していくことが必要です。

一方、医療健康情報サービスや認知症支援などを実現するためには、福祉や医療など、さまざまな他領域との連携のみならず、当事者との協働が不可欠です。

4. 図書館の人的リソースの量的質的向上

図書館サービスを充実するためには、専門知識と経験を有する職員の配置が不可欠です。そのためには、つくば市の他部署と協働し、つくば市の施策に寄り添った図書館サービスを組み立てることができ、かつ情報専門職である司書職員を増やすことが重要です。

また、今後も図書館ボランティアに大きな期待がかけられます。中央図書館では現在、9つの分野で約160人のボランティアが活動していますが、今後はボランティアの主体性を高め、さらにボランティア活動が活発に行われるような仕組みをつくることを提言します。

5. 中央図書館の新設とセンター機能の強化

つくば市立中央図書館は開館 30 年目に入りました。施設修繕等を適切に行い、環境の整備に努めていますが、施設拡張は困難であり、駐車場問題もあり、現在の施設で中央館としての役目を果たすのは厳しい状況にあります。一方で、中央図書館は、開放感のあるガラスエリアから中庭が臨め、また、中央公園に隣接しているなど周辺環境に恵まれ、市民に親しまれています。これらの周辺環境をいかし、図書館から直接中庭に出られるように改修する、また、中央公園の自然を感じられるよう、デッキスペースを設けるなどの改修工事が第一段階として考えられます。

中長期的展望としては、改築や別の場所への新館建設を検討する必要があります。新たに滞在型の施設を計画する際には、複合施設であることも視野に入れる必要があります。複数の要素が融合することで、図書館機能の強化や広がり生まれ、図書館がなお一層市民生活に役立つ施設となるばかりでなく、図書館の集客力を生かした活気あるまちづくりを実現することができます。

おわりに

つくば市図書館懇話会は、平成 30 (2018) 年7月以降、計10回の対面会議、メーリングリストでの議論、シンポジウムやライブラリーピクニックなどのイベントを通して、1年8ヶ月にわたる議論を重ね、この提言書をまとめました。

当初は、昭和 60 (1985) 年に筑波研究学園都市の核となる施設としてオープンし、平成 30 (2018) 年1月に閉館したクレオへの公共施設導入が検討されていました。その一環として、クレオへの中央図書館移転や一部機能の移転などの可能性が浮上したため、つくば市図書館懇話会では、中央図書館を中心に検討していました。しかし、平成 30 (2018) 年 11 月、「市が出資してクレオ再生を図ることはしない」という結論が出され、中央図書館に関しては、「スペース不足や老朽化などの課題を抱えていることから、図書館懇話会により、今後のあり方を検討する。」(平成 30 年 11 月 2 日つくば市議会全員協議会資料)とされるに至りました。

つくば市図書館懇話会は方向転換を余儀なくされ、改めて、中央図書館に限定することなく、つくば市域全体の図書館について検討することにしました。そこで、公開シンポジウム「図書館の未来のかたちーつくば市の図書館のこれからを考えるー」を実施し、直接、市民のみならずつくば市の図書館についてディスカッションしていただく場を設けたり、場としての図書館の可能性を探るために筑波大学やつづきブックカフェと協働してライブラリーピクニックを開催したり、交流センター図書室や自動車図書館ステーションの視察を行ったりして、机上の空論にならないよう手を尽くしつつ、つくば市の図書館のこれらについて議論を重ねました。

この提言書をまとめるにあたり、直接的・間接的に多くの方々にお世話になりました。つくば市図書館懇話会の対面会議に陪席し、モチベーションを高めてくださった毛塚幹人副市長(つくば市)、素晴らしいチームワークと熱意で図書館懇話会を支えてくださった柴原徹館長、梶山久美子前館長、松浦智恵子副館長をはじめとするつくば市立中央図書館の職員のみならず、公開シンポジウムで魅力的なスピーチや講演をくださった溝上智恵子系長(筑波大学図書館情報メディア系)、木下豊館長(横浜市港北図書館(当時))、グループワークで熱心に意見を出し合い議論してくださったつくば市民や参加者のみならず、つくば市域図書館連携協議会の共同事業の第一弾として実施されたライブラリーピクニックにスピーチで花を添えてくださった五十嵐立青市長(つくば市)、永田恭介学長(筑波大学)、ライブラリーピクニックの実施にご尽力くださった阿部豊副学長・図書館長(筑波大学)、そして、鈴木秀樹部長、村上康子課長、成澤めぐみ課長(以上、筑波大学附属図書館)をはじめとする筑波大学附属図書館の職員のみならず、横浜市からたくさんのお本をのせた「オレンジボーイ」を連れてライブラリーピクニックに参画してくださった江幡千代子さん(「走らせよう!つづきブックカフェ実行委員会」代表)、若杉隆志さん(つづき図書館ファン倶楽部代表)をはじめとするつづきブックカフェのみならず、その他、お力を貸してくださったすべての方々に感謝申し上げますとともに、多くの方々からお力をいただいたこの提言書が、つくば市の図書館のこれらに役立つことを願ってやみません。

さいごになりましたが、図書館懇話会委員のみならず、様々なバックグラウンドからの活発な議論をありがとうございました。おつかれさまでした。

令和2(2020)年3月

つくば市図書館懇話会 座長

筑波大学 図書館情報メディア系 教授

筑波大学 附属図書館 副館長

呑海 沙織

つくば市図書館懇話会開催記録

	年月	協議内容等
第1回	平成30(2018)年 7月19日	①現在のつくば市図書館の課題について ②今後の図書館サービスについて ③コンセプトのアイデアについて
第2回	平成30(2018)年 9月3日	①各種統計について(報告) ②第1回懇話会で出された課題の解決策について ③コンセプトについて ④アイデアについて
イベント	平成30(2018)年 11月24日	公開シンポジウム「図書館の未来のかたち—つくば市の図書館のこれからを考える—」(共催:筑波大学図書館情報メディア系,場所:つくば市役所会議室201) ①講演「つくば市のビジョンと図書館」 講師:つくば市副市長 毛塚 幹人 氏 ②講演「公共図書館とつくば市の図書館のこれから」 講師:筑波大学図書館情報メディア系教授 呑海 沙織 氏 ③講演「地域を味方にする図書館づくり」 講師:横浜市港北図書館 館長 木下 豊 氏(当時) ④グループディスカッション ⑤グループによるプレゼンテーション
第3回	平成30(2018)年 11月26日	①クレオに関する状況について(報告) ②懇話会の今後の進め方について ③公開シンポジウムの実施結果について(報告) ④中央図書館館内視察
第4回 (視察)	平成30(2018)年 12月5日	①4交流センター図書室視察 ②自動車図書館ステーション視察
第5回	平成31(2019)年 1月29日	①公開シンポジウムで出された意見について ②現在の図書館で改善可能な事項について ③「つくばVAN泊2019」への参加について
第6回	平成31(2019)年 4月26日	①「つくばVAN泊2019」への参加報告について ②懇話会提言書の内容について ③ライブラリーピクニックについて
イベント	令和元(2019)年 5月11~12日	「第1回ライブラリーピクニック」実施(場所:文化会館アルス屋外展示場) 図書の貸出し、読み聞かせ、ジャズ演奏、飲食可能
第7回	令和元(2019)年 7月30日	①「第1回ライブラリーピクニック」の実施報告について ②提言書に盛り込む事項について ③「第2回ライブラリーピクニック」の開催について
第8回	令和元(2019)年 8月29日	①提言書の内容について ②「第2回ライブラリーピクニック」について
第9回	令和元(2019)年 10月1日	①提言書の内容について ②「第2回ライブラリーピクニック」について
第10回	令和元(2019)年 10月15日	①提言書の確認について ②「第2回ライブラリーピクニック」について
イベント	令和元(2019)年 11月2~3日	「第2回ライブラリーピクニック」実施 (主催:筑波大学附属図書館、つくば市立中央図書館、共催:筑波大学図書館情報メディア系、協力:つづきブックカフェ、場所:筑波大学附属中央図書館〔11月2日〕、つくばセンター広場 BiVi つくば前〔11月3日〕)、図書の貸出し、読み聞かせ、展示会、ジャズ演奏、飲食可能

将来ビジョンのコンセプトイメージ図の解説

青空×図書館

青空の下、寝転がって本を読んでいます

図書館ボランティアが大きな声で、読み聞かせをしています



赤ちゃんが泣いても、大きなベビーカーでも気兼ねすることなく、本のある空間を楽しんでいます

お散歩の途中、ペットの犬と一緒に、本を選んでいきます

図書館の本について、楽しくおしゃべりしています

お気に入りの飲み物を楽しみながら、自分の時間を楽しんでいます

図書館員がオレンジリング（認知症サポーターの証）を着けています



ソファでくつろぎながら、図書館の本を読んでいます

いつでも豊富な知識をもった図書館員に、相談することができます



様々なバックグラウンドを持った人々が図書館を利用しています

高齢者が読み聞かせで活躍しています

ロボ隊長（「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」への道のりの先頭を歩くマスコットキャラクター）のステッカーが貼られています

図書館員がロボットスーツを着て、重い本をらくらくと運んでいます

自動追従運搬ロボットが、図書館の本を運んでいます



タッチテーブルに表示されるデジタル資料を参照しながら、ディスカッションしています

研究所で開発されたコミュニケーション型ロボットが、試験的に図書館案内をしています

**つくば市図書館懇話会提言書
つくば市図書館の将来構想2020
ふれあいライブラリーパーク**

2020年3月発行

**編 集：つくば市図書館懇話会
発 行：つくば市教育委員会
デザイン：マザータンク**